

# 生駒市商工観光ビジョン 概要版(案)

---

令和5(2023)年9月  
生駒市 地域活力創生部 商工観光課

## ▼序章 生駒市商工観光ビジョンとは

- 生駒市商工観光ビジョンとは
- 関連計画との位置づけ
- 本ビジョンの計画期間
- 計画の構成

## ▼第1章 生駒市商工観光ビジョンの改定にあたって

- 1.1 改定の趣旨
- 1.2 改定の背景

## ▼第2章 生駒市産業を取り巻く環境

- 2.1 生駒市の人口・世帯の推移と将来予測
- 2.2 生駒市の経済構造
- 2.3 生駒市の事業者を取り巻く経営環境
- 2.4 就業者を取り巻く労働環境(奈良県下の状況)

## ▼第3章 生駒市産業の現状と課題

- 3.1 産業全体の状況
- 3.2 市内事業者の経営状況
- 3.3 工業(製造業)
- 3.4 商業(小売業、飲食業等)
- 3.5 観光
- 3.6 起業
- 3.7 雇用・就労
- 3.8 立地

## ▼第4章 めざす将来像

- 4.1 めざす将来像
- 4.2 めざす将来像の実現に向けて

## ▼第5章 本ビジョン推進に向けた取り組み

- 5.1 基本方針と取組指針
- 5.2 5つの分野の目標と施策の方向
- 5.3 本ビジョンの実現に向けたロードマップ

## 商工観光ビジョンの役割

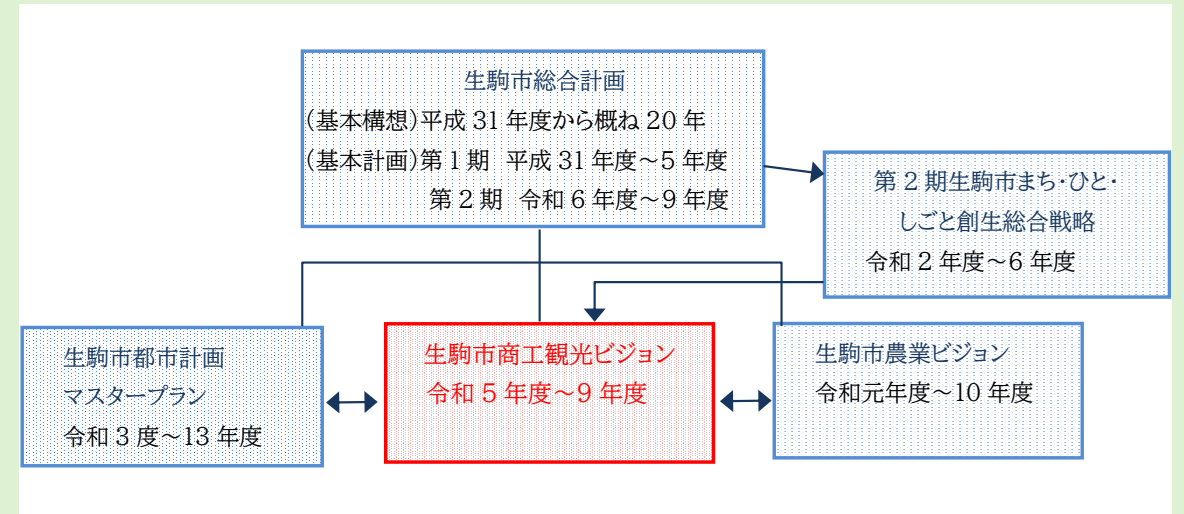
「生駒市商工観光ビジョン」は商業、工業、観光及びその横断的な分野に関する産業振興の具体的な指針としての役割を果たすものです。

## 改定の趣旨

- 前回ビジョンの計画期間の満了
  - ・ 平成29年下半年期～令和4年度
- 前回ビジョン策定後の状況を踏まえた改定
  - ・ 現況や課題の把握
    - ① 前回ビジョンの検証
    - ② 市内産業の現状(既存統計調査)
    - ③ 事業者アンケート・市民アンケートによる意識調査
    - ④ 事業者ヒアリング調査
    - ⑤ 地域経済循環の状況

## 関連計画との位置づけ

本ビジョンは「第6次生駒市総合計画」を上位計画として、「生駒市都市計画マスタープラン」や「生駒市農業ビジョン」などの関連計画と整合性を図り、一体として取り組むものです。



## 改定の背景

### ● 社会経済情勢の変化

- 新型コロナウイルス感染症の影響
- 地球温暖化問題をはじめとする環境問題
- SDGsの観点、DXの進展、働き方をはじめとした意識の変化
- 少子高齢化による雇用の確保難、国内マーケットの縮小
- テレワークやネット通販の普及など働き方や消費行動といったライフスタイルの変化

### ● 第6次生駒市総合計画～「地域の資源と知恵を活かし、魅力と活力あふれるまち」

#### ● 商工業と観光の振興

- 地域経済の活性化や就業機会の増加
- 既存市内企業の定着、活性化と新規企業の誘致
- 商業・サービスの事業継承やイノベーションによる定着・発展の促進
- 労働力の確保に向け多様な働き方を促進

## 生駒市産業を取り巻く環境

### 人口・世帯の推移と将来予測

- 人口全体、生産年齢人口の減少
- 世帯人数の減少と高齢化の進展

### 生駒市の経済構造

- 生駒市の地域経済循環率は60%以下と低い(外で稼いだ分を外で使う構造)

### 事業者を取り巻く経営環境

#### ● 全国的な環境

- 国内雇用とマーケットの縮小
- 新しい経営と雇用への転換
- 経営課題の重複・重層化とリスク事象の反復性への対応

#### ● 生駒市の環境

- 生駒市内の土地利用～少ない事業系用地
- 商業エリアの賃料が高め

### 就業者をとりまく労働環境(奈良県下の状況)

- 育児休業の制度は約7割で規定があるものの男性の取得率が低い
- 働き方改革を実施してる事業者は全体で4割、テレワークは2割と少ない
- 働き方改革、セクハラ・パワハラ防止対策への取り組みは、従業者規模が小さくなるほど低い
- 健康経営の取り組みは、県内でも増加しているが、全体としては少ない

項目	概要	
産業全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業全体の事業所数・従業者数の変化は「横ばい」から「微増」</li> <li>・事業所数・従業者数ともに「卸売・小売業」「医療・福祉」が最も多い</li> <li>・付加価値額(2,300億円)の内、3次産業84.5%、2次産業15.4%、1次産業0.1%で3次産業の割合が国・県平均より高い</li> <li>・事業所規模は、従業員数1~9人の事業所で全体の76.6%である</li> </ul>	
経営状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最近3年程度の経営は厳しい状況で、将来展望も「厳しくなっていく」と感じている経営者が多い</li> <li>・「順調」とした事業者では、前向きな経営努力によって好調な経営につなげている</li> <li>・後継者がいない事業者が半数を超えている</li> <li>・飲食・小売、小規模・個人事業者で交流の機会が少ない</li> <li>・新型コロナウイルス禍の影響は大きく事業縮小や補助金等の活用、経費の見直しなどを実施</li> <li>・国や県、その他の公的支援機関の利用が少ない</li> </ul>	
分野	現状や特徴	課題や支援ニーズ
工業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所数が減少し、雇用者数は増加</li> <li>・調達、販売とも市外取引が多い</li> <li>・公的支援機関の活用が低い</li> <li>・伝統的工芸品の高山茶釜は国内90%以上のシェア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系列会社も多く、親会社の業績変動や外部影響を受けやすい</li> <li>・本市在住者の雇用割合が低い</li> <li>・生産現場は、地域住民や求職者等にとっては事業の様子がわかりづらく事業者イメージの形成や向上による人材確保や誘客等に繋がっていない</li> </ul>
商業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模小売店が減少し、店舗当たりの売り場面積が増加</li> <li>・飲食業は事業所数・従業者数・売上が増加傾向、事業所数拡大</li> <li>・食料品の購入先は、スーパーマーケット大半、個人商店は僅か</li> <li>・趣味・娯楽関連用品や書籍・文房具、洋服・衣料品は、ネットショッピングによる消費が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活圏内の小規模店舗の減少で、買い物の利便性が低下</li> <li>・大阪への通勤者が多く、交通利便性も高いため消費が流出</li> <li>・市内の昼間人口が少なく、商売が難しい</li> <li>・小規模な小売、飲食業は研修や交流機会への参加が難しい</li> <li>・市内消費を優先させる仕組みや意識付けが不十分</li> </ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が挙げる魅力ある観光資源は生駒山、高山竹林園、茶釜、竹など</li> <li>・生駒山麓公園、宝山寺、高山竹林園の来訪者数は、コロナ前から減少傾向</li> <li>・生駒山上遊園地はターゲットを絞り、来訪者がコロナ前までに回復</li> <li>・本市北部地域は、健康志向の高まりもあり近隣市から高齢者の来訪者増加</li> <li>・県内の観光客は増加しているが、本市には大きな変化はない</li> <li>・宿泊業は、奈良市に比べて事業者数・従業者数の規模が小さい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市に訪れる観光客は来訪目的が限定されており、滞在時間も短く、宿泊や飲食等の消費につなげにくい</li> <li>・生駒山麓公園、宝山寺、高山竹林園の来訪者数は、コロナ前から減少傾向</li> <li>・市北部高山エリアの観光資源への交通アクセスに課題があるため、周辺観光スポットや資源との回遊性が低い</li> <li>・市民は生駒山、宝山寺、遊園地の特定観光資源の認知は高いが、まちなか等市内全体の観光魅力への認知が低い</li> <li>・観光誘客を図るターゲット層を明確にできていない為、効果的なPRができていない</li> <li>・道の駅や合宿、さとやまでの宿泊など新たな需要創造についての検討が必要</li> </ul>

分野	現状や特徴	課題や支援ニーズ
起業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創業比率(6.38%)は、奈良県平均を上回り、最も高い</li> <li>・意識調査によると、「起業」を希望する市民は5.5%</li> <li>・過去7年間で創業塾参加者は、延べ241名で、うち、R2以降の134名中14名が創業</li> <li>・IKOMA-DO(イコマド)では、小さな事業を始めたい方、定年を迎えるシニア層からの起業相談が増加</li> <li>・令和2年度からクリエイターや金融機関の行員、専門家による伴走支援を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲からの応援や起業後のリスクを軽減する支援によって、起業予備軍を後押しすることが必要</li> <li>・学校で起業教育がなく、企業家が身近にいないことが課題</li> <li>・地域活動において、専門家に無償で依頼するケースがあり、地域で仕事がまわっていない</li> <li>・商業エリアで、店舗を借りる際の床単価が高く、起業者のハードルになっている</li> </ul>
雇用・就労	<p><u>(雇用状況)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内事業所の従業者数は、前回ビジョン策定時より4%増え29,201人(令和3年)</li> <li>・従業員9名以下の事業所が全体の76.6%</li> <li>・従業者数が30~49人、100人以上の規模の事業所で増加傾向</li> </ul> <p><u>(市民の就労状況)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市外就業率が高く、大阪府への就労率が44.9%</li> <li>・市民の女性の就業率は他自治体に比べて低いが、市内での就業率は高い</li> <li>・市民の従事産業は「卸売業・小売業」が最も多く、次いで「医療・福祉」「製造業」</li> <li>・男性は「製造業」、女性は「医療・福祉」が最も多い</li> <li>・市民の男女とも、「専門的・技術的職業従事者」の割合が高く、市内の就業者においても、同様に高い</li> </ul>	<p><u>(雇用におけるニーズ)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用に際し重視する点は、「熱意・意欲」が最も高く、次いで、「同業界での経験」、「勤務形態の柔軟性」「人材の確保・育成」</li> <li>・副業を導入中・検討中である事業者の割合が52%、一方、導入予定が無いとした事業者は29%</li> <li>・今後、期待する施策や支援では、「人材の確保・育成」が3番目に多く、支援ニーズが高い</li> </ul> <p><u>(就労におけるニーズ)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・転職、起業、新たに就業を希望する者の割合が、24%</li> <li>・働き方で重視する点では、給与・収入のほか、柔軟な勤務形態、仕事のやりがい、勤務地の立地条件の順</li> <li>・副業について、実施者が8%、検討中が45%で、男性の割合が高い</li> <li>・副業の目的は収入面を挙げた者が41%で、活躍の場を広げたいなど収入以外の意義を目的にあげた者が48%</li> </ul> <p><u>(雇用と就労のバランス)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生駒市の有効求人倍率は全国および奈良県と比べて低くなっており、常に1を下回っている</li> <li>・職種では、事務的職業の求職数が最大である一方、求人数が少ない</li> <li>・一方で、サービスおよび生産工程の職業では求職数が少なく、求人数が多い</li> <li>・職種によって雇用ニーズと就労ニーズのバランスが不均衡</li> </ul>
立地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業系の用途地域が少なく、新たに産業を誘致できる場所が少ない</li> <li>・茶釜等以外の特定産業の集積はないが、市北部地域約100社の製造業の集積があり、雇用を生んでいる</li> <li>・企業立地補助金の対象業種は製造業で、学研生駒エリア等の特定エリアに限定して実施し、これまでに25件の補助を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業立地促進条例の対象エリア内には、新たに立地できる産業用地が限られているなか、現行の対象エリア・業種以外にも、本市の商工業振興に資する立地誘導を図れるような施策も必要</li> <li>・事業所の移転先として市内に産業用地が見つからないケースがあり、事業者が流出</li> <li>・現状、特定の産業集積はないが、学研高山地区第2工区での事業系の土地利用が見込まれることから、早期の事業化が望まれる</li> </ul>

将来世代が、地域で働き、消費し、まちなかで楽しく過ごすことのできる活気と魅力ある地域経済が形成されるよう、めざす将来像を、『将来世代に向けて、「住みよさに、働きやすさ、楽しさ」も生み出す、新しい住宅都市の創造』と設定します。

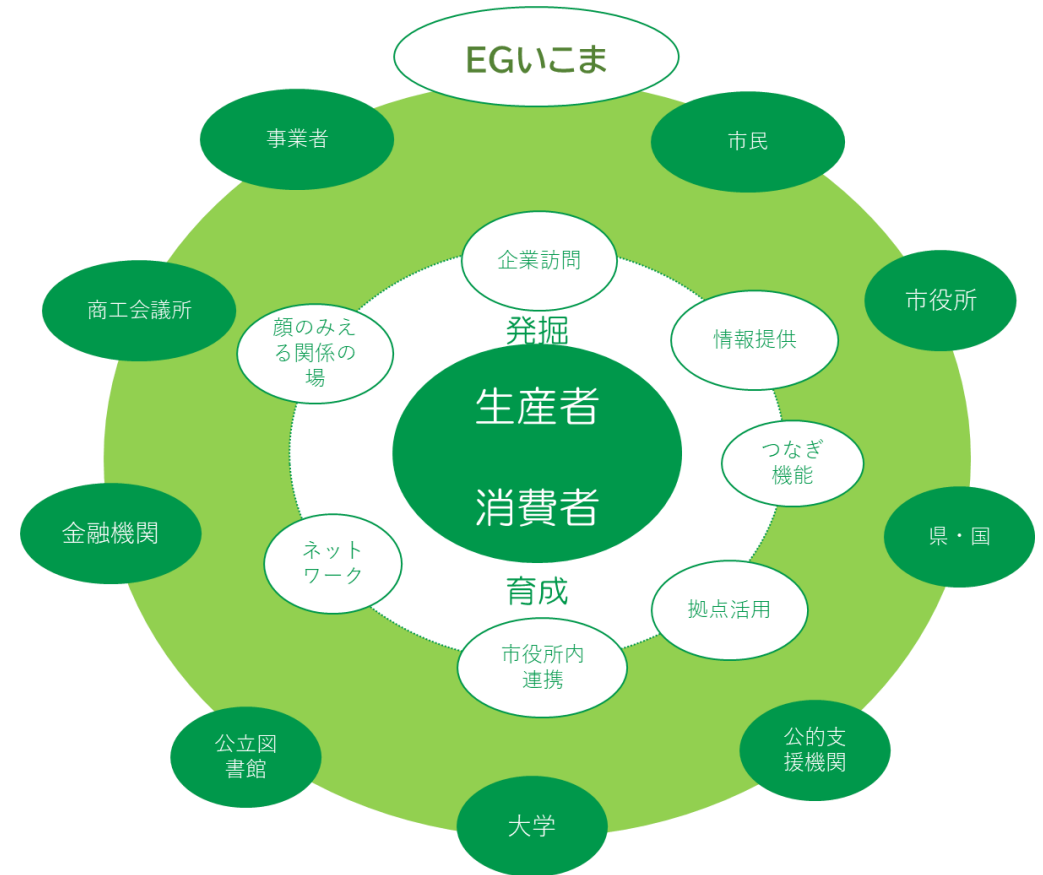
この将来像を実現するためには、「EGいこま」の考え方のもと、様々な経営課題に対し「変革と挑戦」に取り組む事業者を発掘し育成することで消費や雇用の強い基盤をつくり、地域の中で生産者と消費者が互いに顔の見える関係を築くことによって地域における経済循環を生み出していきます。

そのため、本ビジョンの実現に向け、2つの基本方針のもと、5つの分野を定め、それぞれにめざす姿を実現していきます。



## 生駒市版エコノミックガーデニング 「EGいこま」の展開

- めざす将来像の実現に向けては、基礎自治体である本市だけでは達成することができません。
- そのため、地域経済の活性化を図る生駒市版エコノミックガーデニング(注)「EGいこま」の考え方のもと、商工会議所や地域金融機関との連携を強化し、現在つながりの薄い国・県、大学等の支援機関との連携も深め、産学公民金の支援者のネットワークを構築し、その推進を図っていきます。
- また、顔の見えるまちなか経済循環を促進するため、生産者・消費者としての市内事業者・住民などの「民」が地域経済振興に参画する住宅都市型の生駒市版エコノミックガーデニングを目指します。



(注) エコノミックガーデニングとは

「エコノミックガーデニング」とは、「地域経済振耕」とも訳され、地域の実情に応じて産学公民金の支援者が連携して経済生態系を耕し土壌改良に挑み、意欲的な地域の中小企業が持続的に成長し、雇用を創出するための基盤を築くことを目指す地域経済活性化策のひとつです。



## 事業者、市民、公的支援の役割

### ▼事業者の努力

国内外の厳しい経営環境のもとにあっても、自主・自律的に経営の「変革と挑戦」により事業の成長発展を図り、職住近接の多様な働き方を実現する雇用環境の整備、地域の消費者・生産者、来訪者と顔の見える関係性を築き地域の雇用・購買・消費などに貢献するなど、地域経済活性化の主体となるよう努めるものとします。

### ▼市民の理解及び協力

地域の多様な事業者の存在が多様な雇用や個人の能力の発揮の機会、住民サービスを生み出す源泉であり、地域経済の活性化並びに地域住民の生活の向上及び交流の促進に資する事業活動を通じて、直接か間接かを問わずこれからの住宅都市の住みよさの向上に寄与することを理解し、まちなか経済循環の主体として積極的な域内での経済活動への参加が求められます。

### ▼公的支援のあり方

市及び市内外の産学公民金の公的支援機関は、各機関の使命に基づき事業者との対話を行いながら積極的に「変革と挑戦」に取り組む事業者の「発掘と育成」に努めるものとします。そのうえで、エコノミックガーデニングの考え方のもと産学公民金が相互の支援機能を活かし、つなぎ合い、市内事業者におけるレジリエンスのある経営の継続・発展に向け、絶えずその土壌である経営環境の改善に協働して努めるものとします。

## 市の責務

市は、本ビジョンを遂行するあたり必要な財政・人員体制の確保に努めるとともに、「公的支援のあり方」を踏まえ、また、「EGいこま」の展開をけん引する立場として、具体的に、以下の「7つの活動指針」を定め、その責務を果たします。

- ① 商工会議所と連携した積極的な企業訪問
- ② 他機関も含めた企業支援情報の積極的な情報提供
- ③ 多様な支援機関との信頼関係の構築とつなぎ機能の強化
- ④ IKOMA-DO (イコマド)、高山竹林園、おちやせんなど支援拠点のさらなる活用
- ⑤ 市内部の関係部署との連携強化 (農業、図書館、市民活動、まちづくり、地域共生等)
- ⑥ 「EGいこま」の趣旨に賛同する産学公民金の支援機関のネットワーク構築
- ⑦ 消費者と生産者の顔の見える関係が構築できる場づくり

# ■本ビジョンの目指す将来像と推進に向けた取り組みの全体イメージ

## めざす将来像

将来世代に向けて、「住みよさに、働きやすさ、楽しさ」も生み出す、新しい住宅都市の創造

## 基本方針

変革と挑戦に取り組む  
事業者の発掘と育成

顔の見える  
まちなか経済循環の創出

## 取組指針

- ① 生駒市で活動する事業者の経営革新の取り組みを支援
- ② 生駒市での新たなビジネスや新分野への挑戦を支援
- ③ 生駒市における生産者と消費者の出会いの場を創出
- ④ 生駒市で活躍する人材を増やす
- ⑤ 生駒市において新たな需要を創出

## 5つの分野の目標と施策の方向

### 工業

- 市内におけるものづくり操業環境の確保
- 立地製造業への企業訪問と意見交換の場の設置
- 公的支援機関と連携した経営支援の実施
- 生産現場の体験機会の創出

### 商工業

### 商業

- 積極的な商いと魅力ある店舗の創出・発信
- 小規模・既存店舗への支援
- 新規開業の促進
- 市内需要の喚起
- 有志の商業活動グループへの支援

### 観光

- 「住んで楽しい」身近な観光価値が地域経済に繋がる観光振興
- 市民がつくる観光の魅力
- 来訪者の増加とその需要の受け皿となる事業者の取り組みへの支援
- 交通機関と連携した来訪スポット周辺の地域資源の活用
- 新たな観光需要の創造の検討

### 雇用就労

- 市内事業者の雇用・定着支援と多様な働き方による雇用・就労の促進
- 多様な雇用・就労に向けた支援
- 雇用の確保と定着の促進

### 立地

- 幅広い企業誘致・開業支援と新たな産業集積の創造
- 新たな企業誘致・開業支援
- 学研高山地区第2工区における産業機能の集積
- 立地企業へのフォローアップの実施

### 起業

- ローカルビジネス起業の促進
- 起業意欲の醸成と教育
- 起業家の成長ステージに応じた支援
- 市民や事業者が地域の起業を応援する環境の醸成
- 大学発ベンチャーへの支援

## ビジョンで達成する各分野の5年後の姿

### 雇用を増やすものづくり企業のあるまち

- ・事業規模が拡大し雇用を増やす企業が増加している
- ・公的支援機関を活用した経営革新が増加している
- ・オープンファクトリーに取り組む事業者が増加している

### 魅力ある店舗とにぎわいのあるまち

- ・地域に愛される店舗が継承され身近な商業機能が確保されている
- ・駅前、まちなかに魅力ある店舗が増加している
- ・消費の受け皿となる個店が増え、市民の市内消費が増加している
- ・パルやフェスタなどが日常的に開催され駅前に活気と魅力がある

### 身近な観光で地域経済がまわるまち

- ・市民が誘客の主体となって、多様な来訪者が訪れている
- ・生駒山のほか、まちなかや市内周遊ルート、地域観光イベントなど新たな観光が創出され来訪機会が増加している
- ・来訪者の滞在時間と消費が増え地域経済に貢献している
- ・宿泊施設など新たな観光拠点の立地が計画されている

### 多様な働き方が実現するまち

- ・マルチワーク、パラレルキャリア等を実践する市民が増加している
- ・市内事業者で多様な雇用が採用され、雇用が定着している
- ・女性や障がい者などの就労が進み市内雇用者が増加している

### 多様な企業が立地し定着するまち

- ・製造業のほか、多様な事業者が駅前やまちなかにも移転・開業が進んでいる
- ・学研高山地区第2工区で新たな産業と雇用が生まれている

### 起業者が地域でつながり身近にいるまち

- ・子どもから大人までが起業を身近に感じるようになってきている
- ・ローカルビジネスが生まれ育ちやすい環境ができてきている
- ・大学発等のスタートアップが生まれている
- ・地域や社会の課題が地域のビジネスで解決されている

### 【目標】市内におけるものづくり操業環境の確保

立地企業との日常的な関係を構築し、道路等のインフラ関係、増改築、雇用に関する事項など操業環境の課題を共有し、本市における事業継続のための操業環境の確保を図ります。

### 【施策の方向】

#### ○立地製造業への企業訪問と意見交換の場の設置

市職員、商工会議所職員などによる日常的な企業訪問を行うとともに、通勤環境の確保など北部地域の製造業(工業会等)との定期的な意見交換の場を設置し操業環境に関する課題を共有します。

#### ○公的支援機関と連携した経営支援の実施

公的支援機関の活用は低い傾向にありますが、これまで実施してきた展示会出展支援のほか製造業への支援を実施している国や県、(公財)関西文化学術研究都市推進機構などの公的支援機関と連携した経営支援を実施し、市内企業向けに、これら機関の支援情報を発信します。

#### ○生産現場の体験機会の創出

本市の伝統的工芸品産業や製造業の集積を活かした生産現場における体験の機会、ものづくりの思いに触れる機会を内外に向けて創出し、雇用支援や観光資源化につなげます。

### 【目標】 積極的な商いと魅力ある店舗の創出・発信

積極的な小売・飲食事業者の付加価値向上に向けた変革を支援するとともに、新たな開業を促進し、魅力ある店舗の発信や商業イベントの機会など通じて学びと商いの両立を図ります。

また、生駒駅南口エリアプラットフォームの取り組みなど駅前の商業集積地の活性化に向けた取り組みを進めていきます。さらに、個店の商いのものに福祉的価値もあることから、個店の多様な価値を発信し、地域においても、買物や飲食、サービスが楽しめ、暮らしが豊かになる環境づくりを進めます。

### 【施策の方向】

#### ○小規模・既存店舗への支援

店舗への個別訪問により、顧客の獲得やキャッシュレス決済等のデジタル化など経営課題を把握し、店舗の魅力等の向上に向けた新たな取り組みを支援します。

#### ○新規開業の促進

暮らしを豊かにする生活サービスや商品を新たに提供する事業者、地域社会に積極的に関わり、様々な課題にビジネスとして参入する事業者などに、店舗開設の支援を行います。

#### ○市内需要の喚起

市内店舗の認知向上と市民の日常的な購買行動につながる需要喚起のため、飲食・物販イベントや移動販売が定期的で開催される仕組みづくりを行います。

また、農業者と飲食店・消費者をつなぎ、市内の仕入先の強化や新たな顧客・リピーターの獲得など農業・食における需要喚起として、地産地消に資する取り組みも進めます。そのほか、休日の来訪者や市民の消費行動を分析するなどして、潜在需要の把握を行い事業者に情報提供を行います。

#### ○有志の商業活動グループへの支援

事業者の交流を促進し、複数の積極的な事業者が共同で取り組む事業を応援する仕組みをつくり、事業者間での仲間づくりや新たな結びつきの掘り起こしなどを支援します。

### 【目標】「住んで楽しい」身近な観光価値が地域経済に繋がる観光振興

住宅都市における観光として、魅力ある店舗やスポット等での市民の日常的な消費行動を通じて感じる楽しみや非日常体験といった「住んで楽しい」身近な観光価値の創造を図ります。また、こうした観光価値を市民が発信することなどによる関係人口づくりが、地元経済に繋がる観光振興を目指します。

### 【施策の方向】

#### ○市民がつくる観光の魅力

本市の魅力知らない市民への魅力ある店舗や非日常体験、新型コロナウイルス対策で実施した需要喚起策を通じて人気となった店舗などのPRを通じて来訪・来店を促し、日常の消費活動から市民が誘客の主体となるような仕組みづくりを行います。

#### ○来訪者の増加とその需要の受け皿となる事業者の取り組みへの支援

近隣都市の住民やインバウンドで訪れている外国人などに、これまで実施してきた生駒山のブランド化や着地型観光など、観光施設だけでなく地域としての生駒市の魅力を醸成する取り組みなどを国内外に発信することによって、市外からの誘客を図ります。

また、地域の事業者等が実施する観光関連イベントの開催支援を通じて、市内の観光価値を発信し、需要喚起を実施します。

事業者への支援としては、例えば土日や夜間の営業など来訪者の様々なニーズに積極的に対応しようとする事業者の発掘と育成を図ります。

#### ○交通機関と連携し来訪スポット周辺の地域資源の活用

市内の電鉄会社、バス会社やタクシー事業者との連携を強化し沿線・地域の魅力と交通アクセスの向上を図ります。また、観光関連事業者や観光ボランティアガイド等と連携し、来訪者の多い観光スポットの回遊性を高めることで、今ある地域資源を有効に活用します。

#### ○外国人向けの情報発信や観光ルート等案内の強化

人気となった店舗の発信などをインバウンドで訪れている外国人に発信します。生駒山の非日常性や茶釜などお茶文化の体験など外国人が魅力とを感じる細かな情報を届ける仕組みを検討します。また、1日や半日で移動可能な観光ルートや、北部地域の交通アクセスなど公共交通機関を使った移動に関するガイド機能の向上に向けた取り組みを実施します。

#### ○新たな観光需要の創造の検討

宿泊施設の確保、道の駅やスポーツ施設を活用した合宿の誘致、里山での宿泊体験施設の設置など新たな需要創造の検討を実施します。

### 【目標】市内事業者の雇用・定着支援と多様な働き方による雇用・就労の促進

市内事業者の事業継続と発展に向け、雇用確保と定着のための支援を行います。

また、今後、生産年齢人口が減少する中、事業者が将来にわたり雇用を確保するには、多様な働き方を受け入れる柔軟な雇用の実現が不可欠になってきます。就労者にとっても、多様な働き方は、結婚、子育て、介護等、市民が生活していく中で出会う様々な課題に柔軟に対応し就労を継続するうえで有効な手段となります。

そのため、市内の未就業の女性や障がいのある人などの潜在的な就業希望者、多様な働き方を希望する人を支援し、受け入れる市内事業者につなぐことで、多様なライフスタイルを支援するとともに職住近接の雇用・就業環境を実現します。

### 【施策の方向】

#### ○多様な雇用・就労に向けた支援

マルチワークやワークシェアリング等の多様な働き方に応じた雇用形態についての学習機会を設け、企業側の検討を促すとともに、未就業者やマルチワーク、パラレルワーク、半農半X等を検討する市民に対しても多様な働き方の学習、実践者・経験者との交流などの機会を設けます。

また、多様な雇用と働き方を希望する市民と仕事を地域で依頼したい企業・個人事業主との顔の見える交流・マッチングの場についても検討・実施します。

#### ○雇用の確保と定着の促進

雇用の確保について、現在実施しているハローワークとの合同企業説明会の場を課題に即した形で活用するほか、市内雇用の促進に向け市民に事業者の魅力伝える機会を設けるなど就業希望者とのマッチングを実施します。

個人事業主、家族経営の業態の事業者においては、事業承継や非正規雇用者等の確保、多様な就労ニーズに関する課題への対応を支援します。

また、生駒商工会議所等と連携し、社員研修や健康経営など人材の定着に向けた支援を実施します。

### 【目標】幅広い企業誘致・開業支援と新たな産業集積の創造

市内における雇用や消費活動を促進するため、現在実施している製造業向けの立地支援に加え、短期的には、市内の商業地・住宅地への企業誘致・開業支援を実施するとともに、中長期的には、学研高山地区第2工区の開発における産業集積を目指します。

また、企業立地はゴールではなくスタートだと認識し、立地企業が生駒市に根を下ろし事業を継続できるようフォローアップに注力します。

### 【施策の方向】

#### ○新たな企業誘致・開業支援

空きテナントにサテライトオフィス等を誘致することで商業地の活性化を図ります。また、住宅地における小さな開業を支援することで、まちなかでの新たな事業者の立地を促進します。

さらに、製造業以外の産業の誘致についても検討し実施します。

#### ○学研高山地区第2工区における産業機能の集積

現在は企業が立地できる事業用地が少ない状況となっていますが、雇用拡大を実現するためには、生駒市内に就業機会を創出することが不可欠です。今後、学研高山地区第2工区において、土地利用の方向性に基づき産業機能の集積を目指します。

#### ○立地企業へのフォローアップの実施

立地企業やサテライトオフィス誘致、企業支援により開業した事業者などに対し、市職員、生駒商工会議所職員などによる日常的な企業訪問を行うとともに、定期的な意見交換・交流の場を設置するなどしてフォローアップを実施します。また、既存事業者も含め、事業承継やBCPなど事業継続に向けた支援も実施します。

### 【目標】ローカルビジネス起業の促進

地域で活動する市民や小さく始める起業の存在、今後の地域課題の状況を踏まえ、主として地域の人を顧客にし、地域の人を雇用する「ローカルビジネス」から、コミュニティビジネス、ソーシャルビジネスを含む起業を促進するため、起業意欲の醸成と始めやすくかつビジネスの継続を可能にする支援のエコシステムを構築し、地域で起業しやすい環境づくりを行います。

### 【施策の方向】

#### ○起業意欲の醸成と教育

起業意欲の醸成を図るため身近な企業家との交流の場を設けます。また、学校や地域でも起業に関する授業やワークショップを実施するなどし、起業という選択肢があることを知り、物事を自分事として捉え行動する力を高める取り組みを実施します。

#### ○起業者の成長ステージに応じた支援

事業の構想、ビジネスアイデアの段階から、事業計画、起業準備、起業後の交流・マッチングの場までの各ステージにおけるリスク軽減への支援を産学公民金の支援者と連携して実施します。すでに起業した方、パラレルキャリアを目指す方、既存事業者の後継者などが、新たな事業に取り組む第2創業についても同様の枠組で支援します。

また、出産・子育て世代など、時間や場所に制約されない柔軟な働き方ができるスモールビジネスの起業についても、特有の支援ニーズに配慮し、出産・子育て支援等の他の取組と連携し支援します。

#### ○市民や事業者が地域の起業を応援する環境の醸成

起業が、地域住民の生活の向上や交流の促進、職住近接の雇用・就労機会の提供に貢献していることについて発信し、市民や事業者が起業を応援する環境を醸成します。

また、事業者間、商工・観光業以外の業種、経済団体・地域団体、有志のコミュニティ、フリーランスなど多様な主体との関わりの中で、顔の見える関係性が持てる場づくりを行い、起業者と各主体との相互のビジネスを応援する環境を醸成します。

#### ○大学発ベンチャーへの支援

市内に立地している奈良先端科学技術大学院大学が実施する大学発ベンチャー支援と連携し、地域課題・地域資源・市内事業者と連携した実証の場の提供、県や他の公的支援機関、金融機関等と連携した支援などを検討し、市内発ベンチャーの創出環境を構築します。



